

薬剤・器材アンケート結果に関する考察

(公社)東京都ペストコントロール協会 感染症委員会委員長 渡邊 徹

はじめに

東京都では、感染症週報をホームページに掲載している。一類感染症の報告こそ無いものの、全国年累計では驚くほどの発生件数が報告されている。感染地としては国内のほか、パラチフスはインドネシア、デング熱はポリネシア、結核でも71件中6件が東南アジアと報告されている。

このことは、近づくオリンピック、パラリンピックによるインバウンドの増加がそのまま感染症発生のリスクの高まりになることを意味する。「デング熱媒介蚊サーベイランス」は都立公園について重点9箇所、広域16箇所計25か所の調査を実施している。さらにオリンピック関連施設周辺でのサーベイランスが必要と考える。

表1 感染症週報(2019年第15週版)

全国年類型		全国年類型		
一類	0	アメーバ赤痢	250	
二類	結核 5,692	ウイルス性肝炎	89	
三類	コレラ 1	急性弛緩性麻痺	16	
四類	細菌性赤痢	28	急性脳炎	340
	腸管出血性大腸菌感染症	287	クリプトスポリジウム症	4
	腸チフス	10	レンサ球菌感染症	265
	パラチフス	6	後天性免疫不全症候群	332
	E型肝炎	127	侵襲性インフルエンザ感染症	183
	A型肝炎	131	侵襲性肺炎球菌感染症	1,088
	オウム病	8	水痘	114
	コケンジオイデス症	1	梅毒	1,742
	重症熱性血小板減少症候群	8	クリプトコックス症	41
	チクングニア熱	2	百日咳	4,604
	デング熱	86	風疹	1,276
			五類	

東京都感染症週報2019年第15週 4月8日～4月14日 東京都感染症情報センター

また都内では2018年10月に目黒区、同年12月に葛飾区の保育園で「細菌性赤痢」の集団発生があった。このうち葛飾区の幼稚園について葛飾保健所から協会事務局に出動依頼があり感染症予防衛生隊として対応した。感染症対策は、日常的に依頼があるものではなく、備えていても依頼があるかないかはわからな

い、ともすれば忘れがちな位置にある。

しかし感染症のリスクは高いと改めて認識しこれに備えなくてはならない。

このため感染症委員会は2019年2月登録各社に社内研修の記録と併せて必要な登録資器材の保有状況の報告を求めた。結果を表2に示す。

表2 薬剤・器材保有状況

	第1 ブロック	第2 ブロック	第3 ブロック	第4 ブロック	第5 ブロック	計		第1 ブロック	第2 ブロック	第3 ブロック	第4 ブロック	第5 ブロック	計
薬剤等	小計	小計	小計	小計	小計	計	資材	小計	小計	小計	小計	小計	計
フェトリン水性乳剤/ℓ	28	34	55	18	1.4	136.4	計量カップ(500ml)	15	8	6	6	4	39
ベルメリン水性乳剤/ℓ	0	2	19	23	4.4	48.4	メスシリンダー(200ml)	2	4	5	3	4	18
プロベタンホス水性乳剤/ℓ	32	37	74	36	10.4	189.4	ポリバケツ(10L)	11	10	7	6	5	39
エトフェンプロックス水性乳剤/ℓ	29	34	26.5	5	2	96.5	清拭用タオル	60	137	110	86	51	444
炭酸ガス製剤(フェトリリン)7Kタイプ/本	14	0	0	1	3	18	ビニル袋(45L)	320	75	45	90	151	681
炭酸ガス製剤(フェトリリン)2.4Kタイプ/本	4	9	0	0	1	14	吐瀉物キット	12	2	4	1	4	23
発電機	1	3	2	1	0	7	ブルーシート2×2m	11	7	8	4	4	34
エンジン式セット 動噴/台	6	8	6	3	2	25	防護用具						
リヤカー搭載セット 動噴/台	1	1	0	0	1	3	サージカルマスク	27	505	237	300	210	1279
背負い式動力噴霧機/台	3	1	2	1	0	7	N95マスク	14	38	23	54	26	155
トラック(2名搭乗)/台	4	2	6	6	2	20	タイベックス	21	36	24	17	8	106
トラック(3名搭乗)/台	5	4	2	5	1	17	グローブ1層用	27	32	22	14	8	103
炭酸ガス製剤2.4Kタイプ専用ジョルダーパック/本	3	7	3	1	0	14	グローブ2層用	11	28	22	14	8	83
炭酸ガス製剤7Kタイプ専用台車/台	9	3	3	1	5	21	ゴーグル	32	30	22	14	8	106
最大出勤班数/班	7	9	5	3	5	29	シューズカバー	25	38	34	46	8	151
機材							ゴム長靴	9	9	11	9	7	45
ハンドスプレー	37	17	13	8	8	83	その他ゴム手袋	100	36	10	7	152	305
ミスト機	9	4	6	4	4	27							
小型スプレー(500mL)	18	8	12	9	9	56							

感染症委員でもあるアベックス産業(株)佐々木健氏らが第70回日本衛生動物学会で、さらに東京都ペストコントロール協会1018年10月感染症研修会でも発表された「感染症媒介蚊防除法(屋外低濃度薬剤処理による作業効率を中心に)」では実際に公園環境で蚊成虫防除する

場合どの散布器械が適正か検討された。これによるとハンドスプレー、ミラクン、背負い式動噴、セット動噴それぞれに一長一短があり、道路、植え込み、風の影響、騒音に対する配慮等様々な作業環境に対して使い分けが望ましいと報告された(表3)。

表3 散布機器による作業性の評価一覧

	ハンドスプレー	炭酸ガス	背負い動噴	セット動噴
作業時間	×	◎	◎	○
作業の負担度	×	○	◎	○
作業音	◎	◎	×	×
薬剤飛散	◎	△	△	×
森林部分での散布	×	△	◎	◎
広域での散布	×	○	◎	◎
建物周囲での散布	○	○	◎	○

最も良い◎ 良い○ 若干悪い△ 悪い×